

奥秩父の百名山と信仰の山を歩く 秩父御岳山・両神山

実施日	2015年6月6日(土)~7日(日)
6/6	秩父御岳山三峰口ー強石ー古池周回コース
6/7	日向大谷ー両神山表山道往復コース
天候	6/6 晴れのち曇り 6/7 朝晴れのち曇り
リーダー	石原 勝正
参加者	6/6 涌井良明、石附智江、石原勝正、宇野輝代、石附恵理子 計5名 6/7 涌井良明、石附智江、伊藤久雄、石原勝正、宇野輝代、佐藤政司、天野拓郎、瀧澤きよの、石附恵理子 計9名
費用	交通費 1,560円(池袋起算) 小鹿野町営 800円 計2,360円 宿泊費 7,500円・両神山荘(1泊2食) 弁当500円(希望者) 合計 9,860円
タイム	6/7 三峰口駅(9:25~9:55)強石BS(9:55~11:20)杉の峠(11:25~12:40)御岳山頂上(13:25~13:50)タツミチ分岐(13:55~14:50)猪狩山(15:00~15:25)猪狩神社奥宮(1:35~16:10)古池BS(16:30~17:13)日向大谷入口BS 6/8 民宿両神山荘(6:15~6:50)会所(6:50~8:25)清滝小屋(8:55~9:40)両神山神社(9:50~10:05)両神山頂上(11:05~11:30)両神山神社(11:40~12:20)清滝小屋(12:35~13:55)会所(13:40~14:30)両神山荘(15:15~16:10)三峰口駅

6 / 7 (秩父御岳山)

昨年の噴火で多数の登山者が犠牲となった木曾の御嶽山の王滝口を開山した普寛上人は秩父大滝村の出身、上人は故郷に戻り秩父御岳山を開山したと伝えられている。そのため御嶽山とも書く信仰の山である。

秩父鉄道終点の三峰口駅を降車し、商店街の前を通り強石集落の登山口を目指して歩く。特養老人ホームを通り



越して荒川を渡り国道140号線を横断右折して強石バス停近く強石集落の入口に到達する。

強い日差しの下汗をかきながら御岳山の道標に従って傾斜のきつい集落の家や畑の中を更に上るとようやく御岳山登山道の入口にたどり着き小休止をとる。

三峰口駅から登山口まで50分を超える舗装道を歩くかなり厳しいアプローチとなった。

ここから山道になり、展望のない杉の樹林帯に入って涼しい登山道を1時間ほど登り杉の峠に到達。



峠から御岳山に向かう尾根に乗り急登



して最初のピークを過ぎると送電線鉄塔とベンチのある見晴台で小休憩。

展望台からは大滝村と秩父湖や滝沢ダムへの眺めが素晴らしい。

暫く尾根道を進み小さなピークを越えて林道を横断する。



その後次第に尾根が狭くなり、切れ落ちた左右の崖、露

岩の出たロープ場や鎖場を慎重に通過して山頂に向かう。



山頂の手前には小さな祠が祀られその奥に左右の狛犬と傍の鐘楼に守られた御岳神社が鎮座している。

山頂は小さな広場となっているが北から東西に展望が開けており鋸のようにギザギザした両神山も展望できる。

祠の前の石段で休憩とランチをとる。

今日は両神山荘宿泊で余裕があるのでゆっくりと休憩をとれるのがうれしい。

昼食後、恒例の集合写真を撮り、登ってきた杉の峠を右に分けてタツミチのへ分岐に向かう。

下山道は急に狭く、かつ、傾斜がきつくなり、濡れた土の道がツルツルと横滑りする危険な箇所数回遭遇する。



タツミチの分岐から通常は三峰口駅に向かって右に下るのが普通であるが、今日は厳しいアップダウンと急傾斜の続く厳しい猪狩山コースにチャレンジだ。

踏み跡と樹木へつけられたピンクや白のリボンを頼りに迷い安い尾根筋を急登や急傾斜の下りなどのアップダウンを繰り返して猪狩山のピークに着き小休止。



その後狭い尾根を通過して小さな広場と祠のある猪狩神社奥宮までたどり着く。その後ジグザクの急傾斜を一気に200m以上下って林道を越えたと猪狩神社本宮に着き、古池バス停に到着。

全員無事チャレンジコースを下山したことに満足。

バス停で今日の宿泊先の日向大谷に

ある両神山荘に向かう小鹿野町営バスに乗り到着地の両神山荘で参加者全員9人と合流となり、風呂後のビール、美味しい山菜を中心とした夕食、食後の懇親会を楽しんで就寝。

6 / 8 (両神山)

朝食は6時からとなっていたが福岡から来たパーティの都合で5時から朝食が用意されていたのでこぶし会のグループも早めの朝食をとる。

6時15分に宿を出発。天気も朝晴れのち曇りが予想されていたので、絶好の登山条件。



登山道の入口で登山届を投函。

民宿からすぐ山道に入り小さな沢を渡り、石で造られた鳥居を通り観蔵行者を祀ったお堂を通過する。

登山道にはほぼ一定の間隔で石像があり不動明王の身辺警護を司る26童子の名前が刻まれているといわれている。

最初の鎖のある岩場を越えて軽いアップダウンを繰り返して進むと会所に着き七滝沢まで下り沢にかかった古い木製の橋を渡る。

その後七滝沢と分かれた薄(ススキ)川のゴロゴロした沢沿いを歩く。



出発から1時間ほど歩き河原の広場で小休憩。沢の道は所々で分かりにくい場所に遭遇するが踏み跡と木の枝に巻かれたリボンを頼りに進むことができる。

この辺りは5月中旬であれば沢山のニリンソウが可憐な花を咲かせているとの



ことであるが、残念ながら季節は終わっているようだ。何回か沢を渡り返して右手に岩場を見上

げるあたりから道は沢から離れジグザグに入り傾斜が急になる。樹林帯の中をひたすら上ると弘法の井戸があり、更に笹



の中の急坂を越えるとログハウス造りの清滝小屋に着く。小屋の前や周辺の広場にはベンチや

トイレがありゆっくり休憩をとる。トイレは清潔で利用者も管理者も大切に使用している様子が伺われてすがすがしい気分となる。

清滝小屋の裏手からブナ林の坂を登って行くと鈴ヶ坂という道標を通過し更にキツイ傾斜を登り産体尾根に乗る。

産体尾根から更に傾斜が強まり濡れて滑りやすい箇所もあるが、岩場に絡む木の根や掛けてある鎖・ロープやハンゴを利用して慎重に登る。



横岩と標識のある大きな岩の脇から樹林帯に入り暫く登ると両神神社の鳥居だ。両神神社は日本オオカミを模った二匹の狛犬に守られた奥に鎮座しており、広場にはベンチやテーブルがありそこで急登で疲れた体を休めるためゆっくりと休憩をとる。



両神神社からの尾根道を少し下ると樹木の間から両神山頂らしきピークをわずかに見ることが

できる。更に尾根道のアップダウンを繰り返して最後の鎖場のある大きな岩を登りきると両神山頂の剣ヶ峰に出る。

山頂は小さな祠と頂上標識しかない狭い岩場となっているが



周囲の展望は良く、晴れていれば眺めが



素晴らしい。頂上の岩稜は八丁峠から登ってきた登山グループや我々と同じ表山道から来た登

山者で足の踏み場の探さなくてはならないほど賑わっており、我がこぶし会グループも頂上の岩場でランチをとり山行記念の集合写真を撮る。

下山は慎重に往路を戻り、概ね予定通り日向大谷のバス停から15時10分発三峰口駅行き小鹿野町営バスで帰路に着いた。



両神山は登山コースとしては6時間20分ほどの日帰り日程ですが、都心からのアプローチが長く日帰りが困難なため、前日オプションの秩父御岳山コースも含めて1泊2日コースで実施しました。

6月は季節的に雨の多い梅雨時期で日毎に変わる天気予報に悩まされたものの、幸運にも2日間とも天候に恵まれ雨にも会うことなく山行を遂行することができました。また、岩場や急傾斜の危険の多いルートもある中で、9人の参加者全員特に大きなアクシデントもなく、無事、かつ、楽しく山行を成功させることができたことは皆さんの協力の賜物であったと感謝しております。

(記&写真・石原 勝正)

(写真提供・涌井良明／伊藤久雄)

